

# 第3回総合計画策定市民ワークショップ【分野:人づくり】

(10年後の水俣の将来像)

(主に話し合われた内容)

## グループ1

- ・定年のないまち
- ・一人が複数の仕事を持つ
- ・音楽の街(日本のウィーン)を目指す(男女ともに)
- ・親自身が自分の子どもに残ってほしいと思えるまち(水俣)にする。  
※今はむしろ子どもに水俣を出てほしいと思う親が多いのでは
- ・スポーツを指導する人材の確保(中学校部活動も数年後には社会体育化)

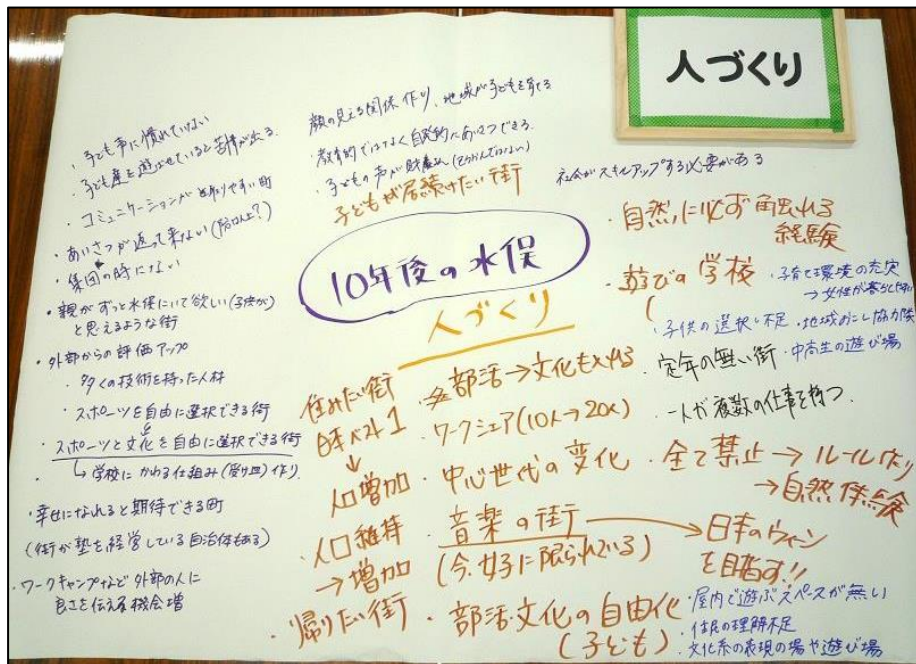


## グループ2

- ・地域おこし協力隊の活用(先進地視察)
- ・中高生の遊び場の確保(現状:公衆Wi-Fiのあるところでゲーム…)
- ・市内全域で子どものあいさつが返ってくるまち(現状:地域差がある)  
=コミュニケーションがとりやすいまち

## グループ3

- ・地域で子どもを育てる(顔の見える関係が重要)
- ・自発的にあいさつができる(教育的、義務的ではなく)
- ・教育環境の充実(自治体が塾を経営など)
- ・幸せになれると期待できるまち
- ・子どもの声があふれるまち



# 第3回総合計画策定市民ワークショップ【分野:産業・経済】

## (10年後の水俣の将来像)

(主に話し合われた内容)

### グループ1

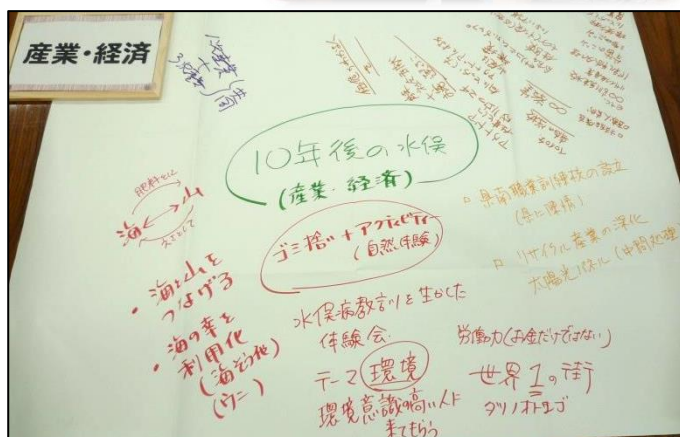
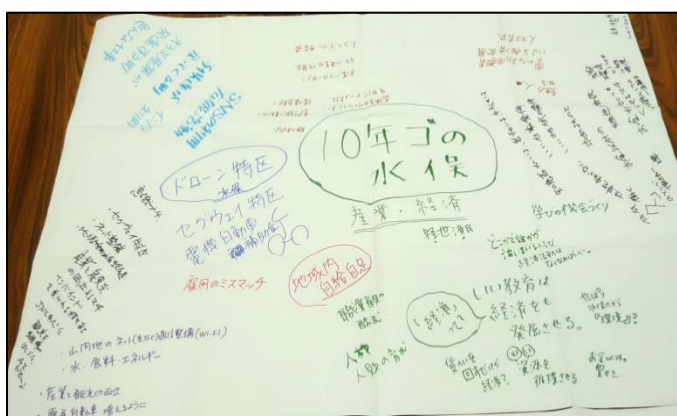
- ・教育で経済が発展するまち(人材育成が大事)
- ・いきいきと働ける仕事づくり(子どもたちが憧れるものを)※職業観の醸成
- ・世代間で知識や技術を引き継げるまち
- ・子どもたちが戻ってくるまち ※高校生がワクワクするまち
- ・SNS等を活用した広報活動
- ・お金がなくても暮らせるまち(お金以外の価値づくり)
- ・いろいろな職種でいい仕事があるまち(いい仕事の条件づくり)
- ・一番は「人」=魅力ある人づくり

### グループ2

- ・産業と観光が両立するまち
- ・観光を経済の柱にするまち(インバウンドの種はある)
- ・AIの活用 ※ネット環境のインフラ整備
- ・特区構想(ドローン特区・セグウェイ特区・電気自動車特区・電動車いす特区)
- ・地域内で自給自足できるまち(水・食料・エネルギー)
- ・経済の定義確認:貨幣経済、共同する経済、自給自足の経済のバランス

### グループ3

- ・県南職業訓練校の設置(職人育成・技能の保存と育成)
- ・リサイクル産業の深化(太陽光パネルの中間処理施設など)
- ・タツノオトシゴ世界一のまち
- ・海と山がつながるまち(海藻を肥料に)
- ・「水俣ならではの」を体験できる観光メニューの充実  
(水俣病の教訓・自然体験・マリンアクティビティなど)
- ・アウトドアが仕事として成り立つまち(PR・人材育成)
- ・第1次産業、第3次産業の活性化





# 第3回総合計画策定市民ワークショップ【分野:保健・医療・福祉】

## (10年後の水俣の将来像)

(主に話し合われた内容)

### グループ1

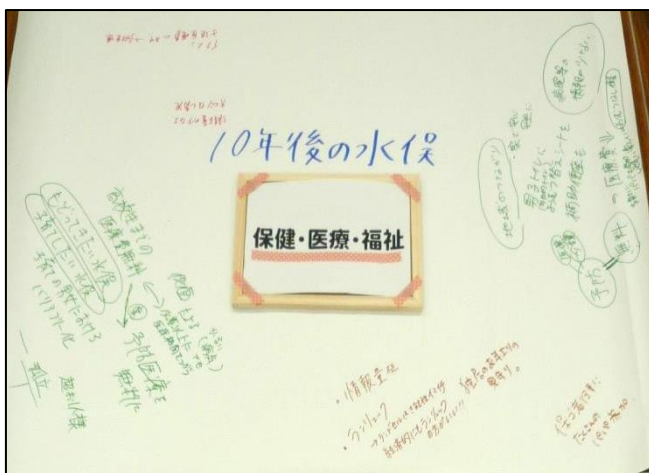
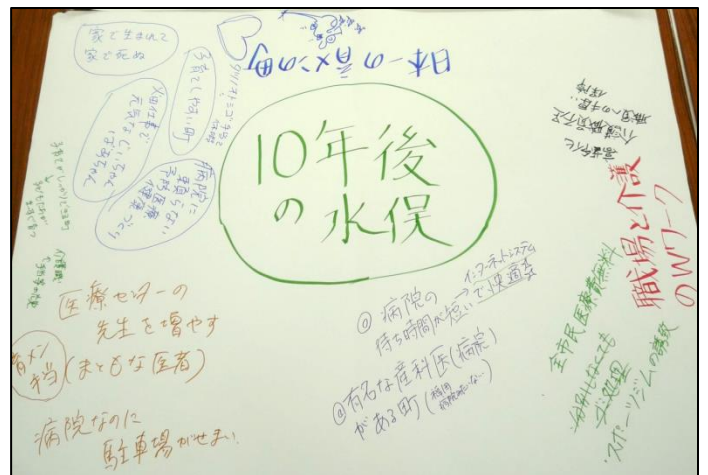
- ・医療センターの充実(医師数・駐車場の広さ・待ち時間短縮等)
- ・介護人材不足の解消(現職と介護職の兼業・介護職の収入増等)
- ・日本一の育メンのまち(タツノオトシゴはオスから子どもが生まれる)
- ・予防医療の充実(医療費抑制、家で生まれて家で死ぬ)

### グループ2

- ・高校生までの医療費の無料化  
※医療費増加の懸念があるため、予防医療の無料化を
- ・戻ってきたい・子育てしたいまち
- ・男性が子育てしやすいまち(男性トイレにもおむつ替えシート等)

### グループ3

- ・子どもに優しいまち(ランリュック(ナイロン製ランドセル)の採用など)
- ・子育てしやすいまち
- ・病院に関する情報が充実しているまち(現状:ネット情報が少ない)
- ・地域のつながりが深いまち(現状は少ないのでは)



## 第3回総合計画策定市民ワークショップ【分野:環境(快適な暮らし)】

### (10年後の水俣の将来像)

(主に話し合われた内容)

#### グループ1

- ・コンパクトシティ
- ・空き家、空き地のないまち(空き家、空き地の有効活用)
- ・ごみ分別に対する意識  
(分別が多すぎる⇨コミュニティのチェック機能を果たしている)

#### グループ2

- ・日本初!タツノオトシゴ保護区をつくる
- ・レジャーのしやすいまち(キャンプ・BBQ)
- ・子どもが積極的に自然の中で遊ぶまち
- ・環境の取り組みの成果が見えるまち



#### グループ3

- ・ごみ分別に対する意識(費用対効果は?)
- ・助け合いのまち  
(老若男女がお互い助け合って生活できるような新しいスタイルの団地)
- ・子どもの遊び場がたくさんあるまち(屋内施設、グリーンスポーツの活用)





## 第3回総合計画策定市民ワークショップ【分野:生活基盤(安全・安心)】

### (10年後の水俣の将来像)

(主に話し合われた内容)

#### グループ1

・サブテーマ:「住みたいまち水俣」

(課題・理由)

- ①防災のまち(地域のつながりが大事)
- ②住宅の確保(現状:家賃・土地の値段が高い)
- ③空き家・空き店舗の活用
- ④商店に開放感が欲しい(現状:外からお店の中まで見えない)等



#### グループ2

・サブテーマ:「よそから転勤したくなるまち」

(課題・理由)

- ①住宅の確保(現状:隣接市と比べて家賃が高い)
- ②高速IC付近に大型商業施設を(人の誘致・外貨獲得等)
- ③ごみ分別の効果の実感が少ない(可視化して分別の意義を伝える)
- ④移動しやすいまち(現状:道路が狭い) 等

#### グループ3

・サブテーマ:「人をひきつける魅力」

(課題・理由)

- ①新幹線や高速道路(水俣IC)の活用
- ②子どもたちがいきいきと暮らせるまち(とことん自然!)
- ③空き家の活用(まずは更地にする)
- ④観光業で稼げるまち 等

